

## 第8回 鴨川市前原横渚海岸周辺の魅力づくり推進委員会 会議録

### ■開催日時・場所・出席者

日時 : 平成31年3月26日(火) 午後2時00分から4時00分

場所 : 鴨川市水道局会議室

出席者 : 以下のとおり

#### 【出席委員】

No.	氏名	備考
1	鈴木 健史	(一社) 鴨川市観光協会 会長
2	水谷 好伸	鴨川ライフセービングクラブ 会長
3	中橋 健二	鴨川シーワールド 営業推進支配人
4	藤巻 武仁	(一社) 鴨川市観光協会 副会長
5	川井 幹雄	鴨川サーフィンクラブ 会長
6	立野 健児	鴨川ライオンズクラブ若獅子支部
7	渡辺 淳一	城西国際大学観光学部 教授
8	内山 達也	城西国際大学観光学部 准教授
9	岡野 大和	公募による市民
10	川上 周一	公募による市民

#### 【欠席委員】

No.	氏名	備考
1	菅原 明善	(一社) 鴨川市青年会議所 副理事長
2	林 良樹	公募による市民
3	清水 宏	鴨川市商工会 観光サービス業部会長

4	福田 雄一郎	鴨川市商工会 前青年部長
5	徳山 英樹	鴨川市漁業協同組合 総務部長
6	久根崎 達郎	鴨川温泉旅館業協同組合 専務理事
7	鈴木 淳	学校法人文理開成学園文理開成高等学校 理事長・校長
8	橋詰 良子	地域おこし協力隊
9	大内 洋	公募による市民
10	村永 信吾	鴨川市健康づくり推進協議会 会長
11	原田 洋美	NPO 法人鴨川ガイド協会 理事
12	庄司 修	公募による市民

【業務委託請負業者等】

No.	氏名	備考
1	安田 景憲	鴨川観光プラットフォーム株式会社 事業推進統括
2	豊島 まゆみ	豊島まゆみ事務所 代表 鴨川市プロジェクトマネージャー
3	小島 由光	プロジェクトマネジメントスタッフ 株式会社スーパーソニック代表取締役
4	牧本 達朗	プロジェクトマネジメントスタッフ パースペクティブ合同会社 代表

【市行政関係者】

所属・職	氏名	備考
鴨川市建設経済部長 兼商工観光課長	平川 潔	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課長補佐	小柴 則明	事務局

鴨川市建設経済部 商工観光課 観光振興係長	影山 光一	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課 新たな観光づくり係 主査	濱野 和明	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課 新たな観光づくり係 主任 主事	川名 亮平	事務局
鴨川市建設経済部 商工観光課 新たな観光づくり係 主事	吉田 未央	事務局

#### ■配布資料

- ①次第
- ②席次表
- ③2019年度地方創生推進交付金実施計画抜粋

#### ■会議要旨

##### 1 開会（午後2時00分）

##### 2 委員長あいさつ

渡辺渡辺委員長よりあいさつがなされた。

委員長から、本日の会議の議事録署名人として、内山委員及び岡野委員が指名された。

##### 3 議事

(1) 各種事業の進捗状況等について ※プロジェクターにより説明。

◎豊島プロジェクトマネージャーから報告

- ・就業者数で見ると、鴨川は全国的にも「医療」×「観光」が突出した希有な地域である。どちらも若い女性の就業率が高いことが特徴で、その特徴を生かすことを考えるべき。
- ・「地元こそ楽しもう」地元をターゲットに。
- ・プロムナードの「小商いスペース」は200m程度の間隔で配置、それ以上離れると隣接感が薄れる。
- ・サーフィンでの地域おこし事例として「宮崎サーフシティ」などがある。
- ・文理開成高校のITオフィスについて海のオフィス化を改めて鈴木理事長と共有。
- ・スポーツ+ほっこりを鴨川ビーチの基本。
- ・市民参加を促すにはディスカウント。誰しもの居場所づくりは公共事業の責任。

◎小島氏からエリア計画を中心に提案

- 海エリアに人が集まる
- ウェルネススポーツコンテンツ
- コミュニティ活性化
- ひとに優しいまちづくり
- きれいなまちづくり
  - ・定期的に来れるコンテンツ（フィットネス、キック）
  - ・安心して子供を預けられる環境
  - ・コンテナハウスの集合体。
  - ・ブックカフェなど健康、知識を入れる。
  - ・海を見ながら過ごすスペースをつくる。
  - ・インスタスポットの設置。
  - ・プロムナードを車両運行区域として使用
  - ・ウェルネスコミュニティーを事業エリアに。（250 台の駐車スペースとスポーツエリア）

(2) 今後の事業推進等について

◎全体の意見交換

- 【藤巻】 ・全体計画の考え方やコンセプトは OK。具体化に向け予算、事業主体、進め方を深める必要がある。全部できないだろうが、絵に描いた餅にならないようにしたい。
- 【平川】 ・民間の力を借りながら、魅力づくりに取り組みたい。道路整備や街路灯については行政がやることとなる。
- 【水谷】 ・実行に移せるところから、ひとつひとつ確実にやっていくべき。よい委員会があるので活用していった方がよい。
- 【岡野】 ・コンセプトビジョンは良い。
  - ・補助金は限界があるため、地元のウェルネススポーツを三セクに・・誰がやるか、お金が課題。
  - ・オガール紫波（岩手県）では、テナントを先に見つけてから施設を作ったので、金融機関が資金を貸してくれる。地元金融機関にも委員会に参加してもらってはどうか。
  - ・3月中にスポーツコミッティーを立ち上げる（一般社団法人）。
  - ・実行に移せるところから何か一つでも取り組むべき。
  - ・ヨットアクティビティ、フィッシングなどコミュニティづくりを。
  - ・市民会館から文理開成にかけて文化施設に。
- 【川上】 ・すばらしいゾーニング案。一つの目標にして良いのでは。海を見ながらアクティビティは良い。
  - ・海を見ながらゆっくりできる場所がほしい。
  - ・CCRC でマンションを取り込んでいくのも有り。
  - ・市民会館側にも大型駐車場がほしい。
  - ・プロムナードの延長で、鴨川シーワールドや亀田まで整備できればよい。ホテルへのアクセスも良くなる。

- ・前原周辺の魅力をつくり、成功例としたい。
- ・順番をつけて取り組む必要がある。
- 【中橋】 ・雨天時にお客さんに紹介できる場所がほしい。
- 【内山】 ・誰もの居場所となるように、ターゲットを絞って具現化していくべき。
- ・ファミリー層が気後れせずに入れる場所が必要。ファミリー層を対象にすると無料施設が良い。
- 【立野】 ・プロムナードの車両禁止は名案。
- 【川井】 ・今年やったサーフィンスクールの評判も良く、周知すれば首都圏から人は呼べるはず。子供たちが休みに手ぶらで海遊びできる場所になるとよい。
- ・温水シャワーが必要。
- ・鴨川はウェットスーツを着れば春からサーフィン可能な場所。寒い時期の着替える時と、水から上がった後のケアをきちんとしてあげれば、お客さんに来てもらえるのでは。
- 【豊島】 ・文理開成のコワーキングスペースは年度明けから工事に入る予定。
- 【藤巻】 ・新規事業を立ち上げて、今だと現場を運営する人が確保できない。従業員がいない。

◎フィッシャリーナ後背地について

- 【平川】 ・2019年度は、地方創生交付金でフィッシャリーナ後背地の整備に57,777千円を計上済み。この費用でどこまでできるか、を考える。
- 【豊島】 ・地方創生計画は国との約束であり、次年度は確実に事業の成果を見せないといけない。
- ・駐車場の整備と上物の整備、どちらを優先するか。
- ・プロムナードの車両通行止めは実現可能と思う。駐車場は、フィッシャリーナと市民会館の2箇所に集約するのが妥当。
- ・暫定的に駐車場+共生広場という利用ではどうか。
- 【鈴木】 ・計画で示されたスポーツジムは、別の場所で地元の民間事業者が別途、計画を進めているようだ。ただ、民業圧迫を気にすると何もできなくなってしまうので、これはこれで計画として残しておく。
- ・海太郎に何かをつくることで視覚的に影響をうけないか心配。
- ・海太郎は周辺との連続性がない。砂浜とフィッシャリーナ後背地、海太郎あたりの連続性を確保するという点では、フィッシャリーナ後背地に何らかのアクティビティ施設が欲しい。
- ・海太郎は、シャワーとかサイクルステーションとか、利用目的が明確な施設を併設することで、今の場所のまま使っていけば良いのではないか。
- 【平川】 ・31年度の魅力体験エリア整備については、駐車場と芝生エリアにすることで議会へは説明をしている。
- 【岡野】 ・駐車場は、いずれ掘り返すことになる可能性も高いので、今の時点で費用を掛けて無理に舗装したり、キレイに仕上げる必要はない。また、アスファルトはエコではない。
- ・まだ将来像が明確に見えていないので、現時点では、最終ゴールに向かう過程として設計するのがよい。
- ・小湊小学校の跡地利用の最終提言で「スポーツ文化施設」としての整備という方向性が

出されている。それとの棲み分けが必要。

- ・海辺倶楽部の活動と連携していく（ビーチクリーン等）。
- ・海辺倶楽部で購入した備品を全体で使うべき（フェスなど）。

【藤巻】 この備品をうまく回すのがプラットフォームの役割ではないか。

【豊島】 小委員会で具体的にアクションを起こしていく。今あることを繋げて見せる。

#### ◎「手ぶらでサーフィン」の報告

【安田】 ・平日のスポーツイベントの集客実験として、3月21日に観光PF主催で「手ぶらでサーフィン」を実施。

- ・NPO法人「二枚目の名刺」に協力してもらい、都内でのPRを展開した。結果、都内のサーファー4名+インストラクターの小川さん、スタッフ含めて12名が参加して実施。

- ・このイベント用の備品として、ロングボード20、ウェットスーツ大人用38/子供用17、等を地方創生交付金で購入した。現在は市民会館2階に保管しており、4月以降は当面市営プールにコンテナを設置し保管するなどの方向で検討中であるが、未確定。

【岡野】 ・当日は天候も良く暖かった。参加者からは好評で、JRからも好反応があった。平日でも一定の需要があることがわかった。一方、平日に2日続けて休める人は少ないので、どうしても日帰りになってしまい、宿泊に結びつけることが課題。

- ・平日がマーケット。平日休む人は半日が多い。
- ・運営人材が不足しがちな休日にさらに数百人、数千人を呼ぶよりも、比較的手の空いている平日に、年間通して数十人ずつ呼べる方がいい。
- ・しばらく続けるとファンになって一人でも来るので、すぐに次の手を打って、きめ細かいケア（DMなど）をすることが大事。
- ・2回目もすぐに取り組みたい。

【平川】 手ぶらでサーフィンは商品となる。

【岡野】 サーフィンは50歳でも初心者がいる。きちんとした質のものを、きちんとした人に売らるべき。

【渡辺】 委員会としてきちんと報告をすることが大事である。

いすみ市は、海が遠く閑散としている。鴨川は海が隣接している強みがある。

#### (3) その他

委員の皆さんには、任期を延長して来年度も引き続きお願いしたい。

次回の日程は、後日調整させてもらう。

#### 4 閉会（午後4時00分）

---

鴨川市附属機関等の会議の公開に関する実施要領第7条第3項の規定により、会議録の内容について確認します。

平成31年3月31日

内山 達也

---

岡野 大和

---